

【農地整備課所管 再評価審議資料】

○再評価対象箇所一覧表	・・・p 1
再評価対象地区に係る事業制度・費用対効果の分析について	・・・p 2
○令和元年度 再評価実施箇所	
再評価実施箇所（附図）	・・・p 3
県営基幹農道整備事業	
1) 下呂中央	・・・p 5～12

令和元年度 再評価対象地区に係る事業制度・費用対効果の分析について

課名 農地整備課

○事業制度について	事業名	県営基幹農道整備事業（農山漁村地域整備交付金）	
	事業目的	農産物輸送の合理化や地域の生活改善、観光などの産業振興、更には災害時の避難路・迂回路など、地域活性化を目的とする事業	
	採択基準	<ul style="list-style-type: none"> ・受益面積が概ね50ha（振興山村、過疎地域は30ha）以上 ・総事業費が1億円以上 ・車道幅員がおおむね4m（振興山村は3m）以上 ・自動車交通量のうち、農業にかかるものが過半を占めること 	
	概要 (メニュー)	・農道の新設又は改良	
○費用対効果の分析について *費用便益B/C*	効果の項目	うち貨幣換算する項目 ≧B ≦	<ul style="list-style-type: none"> ・食料の安定供給の確保に関する効果 <ul style="list-style-type: none"> ① 品質向上効果・・・舗装により、生産物運搬の際の損傷を軽減 ② 営農に係る走行経費節減効果・・・生産・流通に係る走行経（燃料、タイヤ等消耗品）費の節減 ・農村の振興に関する効果 <ul style="list-style-type: none"> ③ 一般交通等経費節減効果・・・一般交通・林業交通の移動距離の短縮や舗装等による走行経費等消耗品）の節減効果 ・④年総効果（便益）額 = ①+②+③ ・⑤総便益（現在価値）・・・事業期間+40年の効果を現在価値化
		その他項目	<ul style="list-style-type: none"> ・快適性向上効果・・・舗装により日常生活の快適性が向上する効果 ・安全性向上効果・・・緊急車両の進入が容易となる、交通事故防止
	費用算定 ≧C ≦	<ul style="list-style-type: none"> ・⑥ 総費用（現在価値） = ⑦+⑧ ・⑦ 当該事業費 ・⑧ その他費用（関連事業費+資産価額+再整備費） 	
	費用比便の益基準	<p>総費用総便益比（総便益/総費用）≥ 1.0 総便益（⑤）÷総費用（⑥）</p>	

令和元年度 再評価実施箇所（附図）

担当課〔農地整備課〕

番 号	1	事業名 (路線・河川名等)	県営基幹農道整備事業 (下呂中央地区)
事業実施箇所	下呂市乗政～御厩野		事業実施主体 岐阜県
採択年度	平成6年度	完了予定年度	令和7年度
再評価の実施基準	事業再評価後一定期間（5年）が経過した時点で継続中の事業		
事業目的	<p>農村集落を農道で結び、営農流通体系を改善することにより、農業・畜産の振興を図るとともに、農村地域の生活環境を改善し、活力ある農山村地域づくりに資する。</p> <p>また、国道41号及び国道257号の代替路線として、災害時には重要な役割を担う。</p>		
事業概要	<p>事業延長 L = 4, 737 m</p> <p>道路工 L = 4, 576 m (全幅7.0 m)</p> <p>橋梁工 L = 161 m (5箇所)</p>		
概要図			

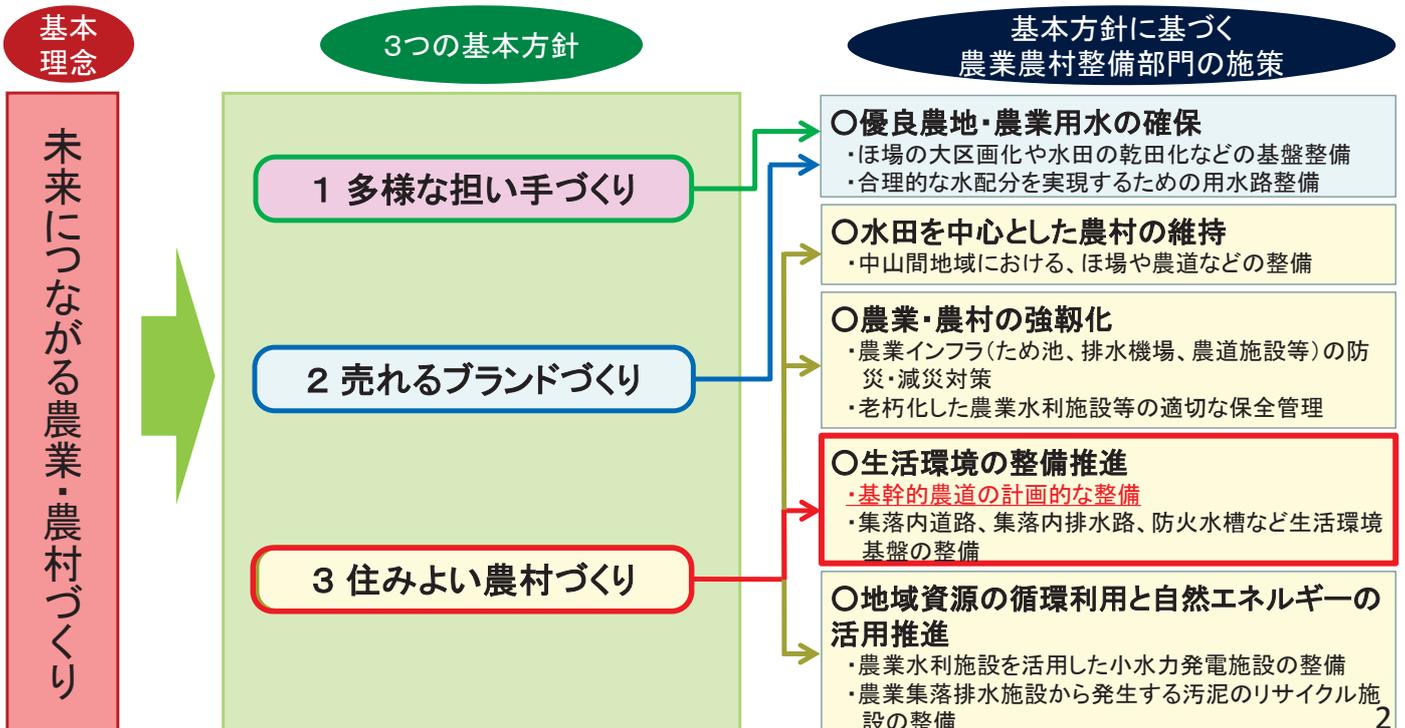
県営基幹農道整備事業 「下呂中央地区」の再評価

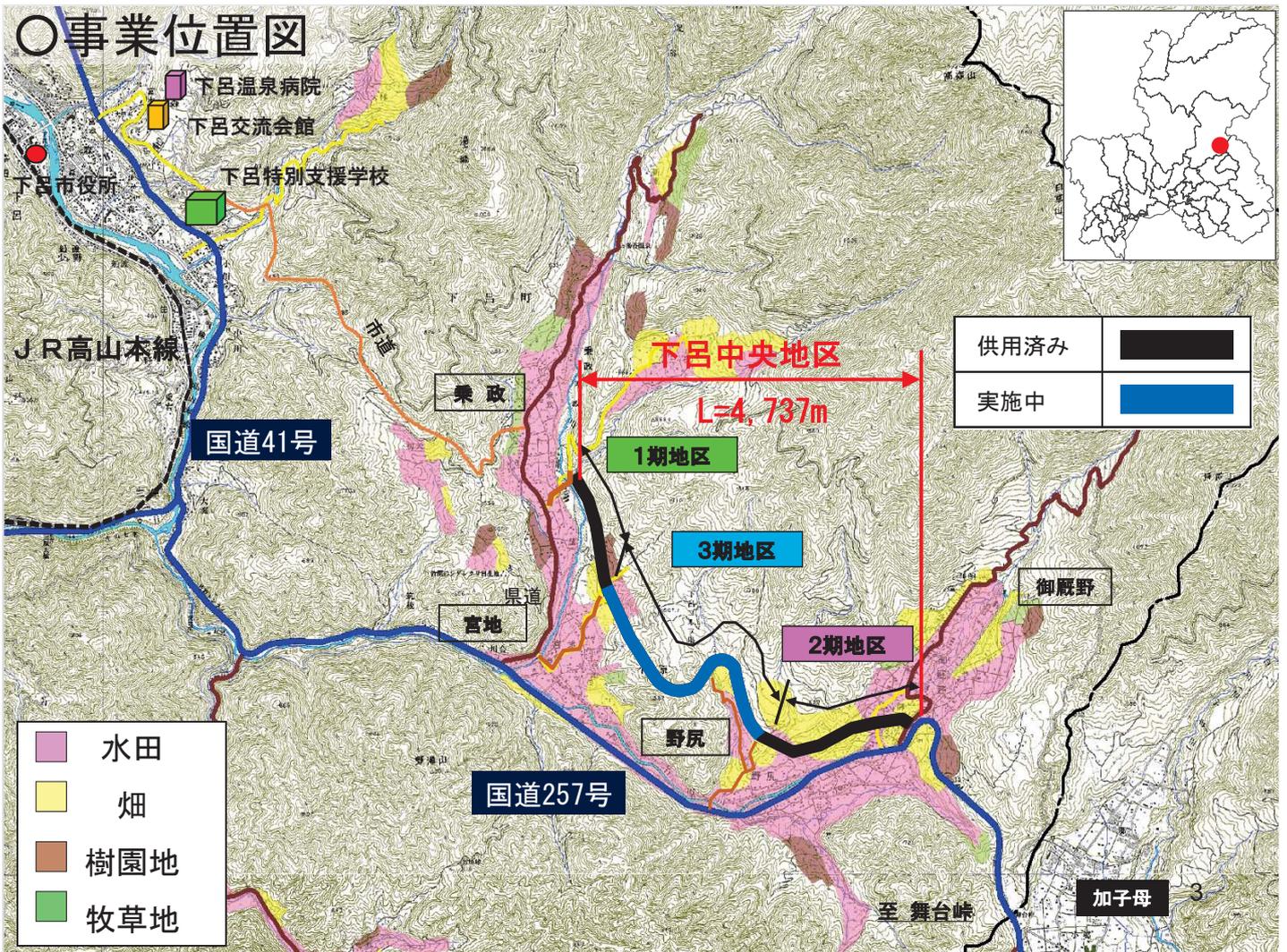


農政部農地整備課

県の施策との位置付け

『ぎふ農業・農村基本計画』の基本方針【住みよい農村づくり】を進めるため、「生活環境の整備推進」として基幹的農道の計画的な整備が農業農村整備関連施策として位置付けられている。





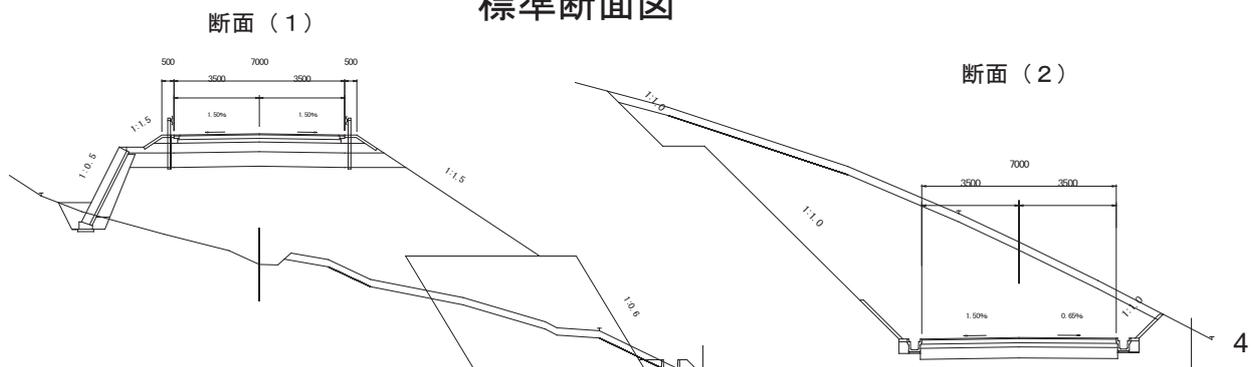
○事業概要（下呂中央地区）

- ・ 総事業費 4, 145百万円
- ・ 受益面積 357ha
- ・ 所在地 下呂市（旧下呂町）
- ・ 工期 平成6年～令和7年
- ・ 事業量 $L=4,737m$
- ・ 幅員 $W=7.0m$ （車道5.5m）※一部区間1.5車線化

<H30までの進捗率>

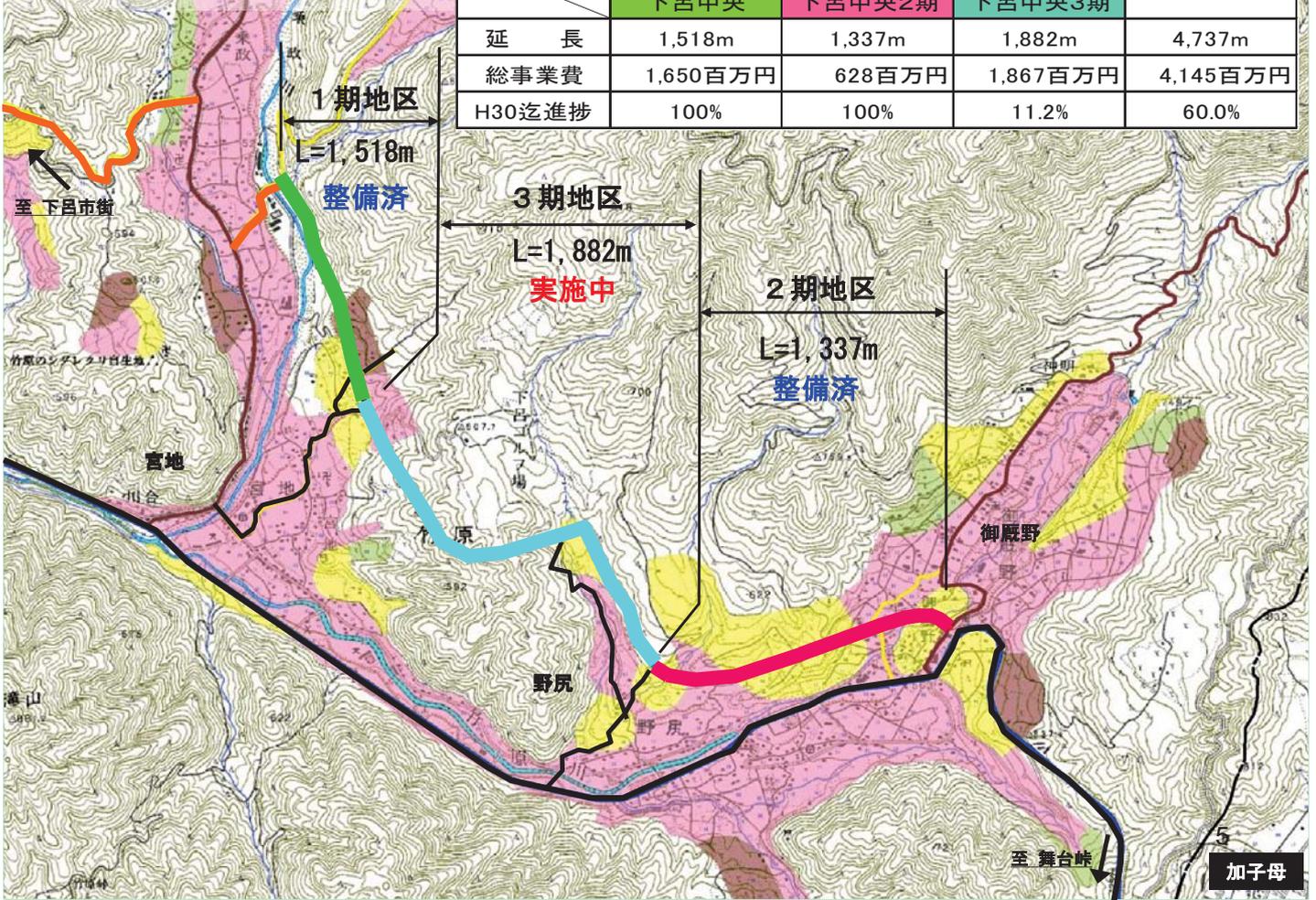
事業量ベース：60.3%（事業費ベース：60.0%）

標準断面図



○事業の進捗状況

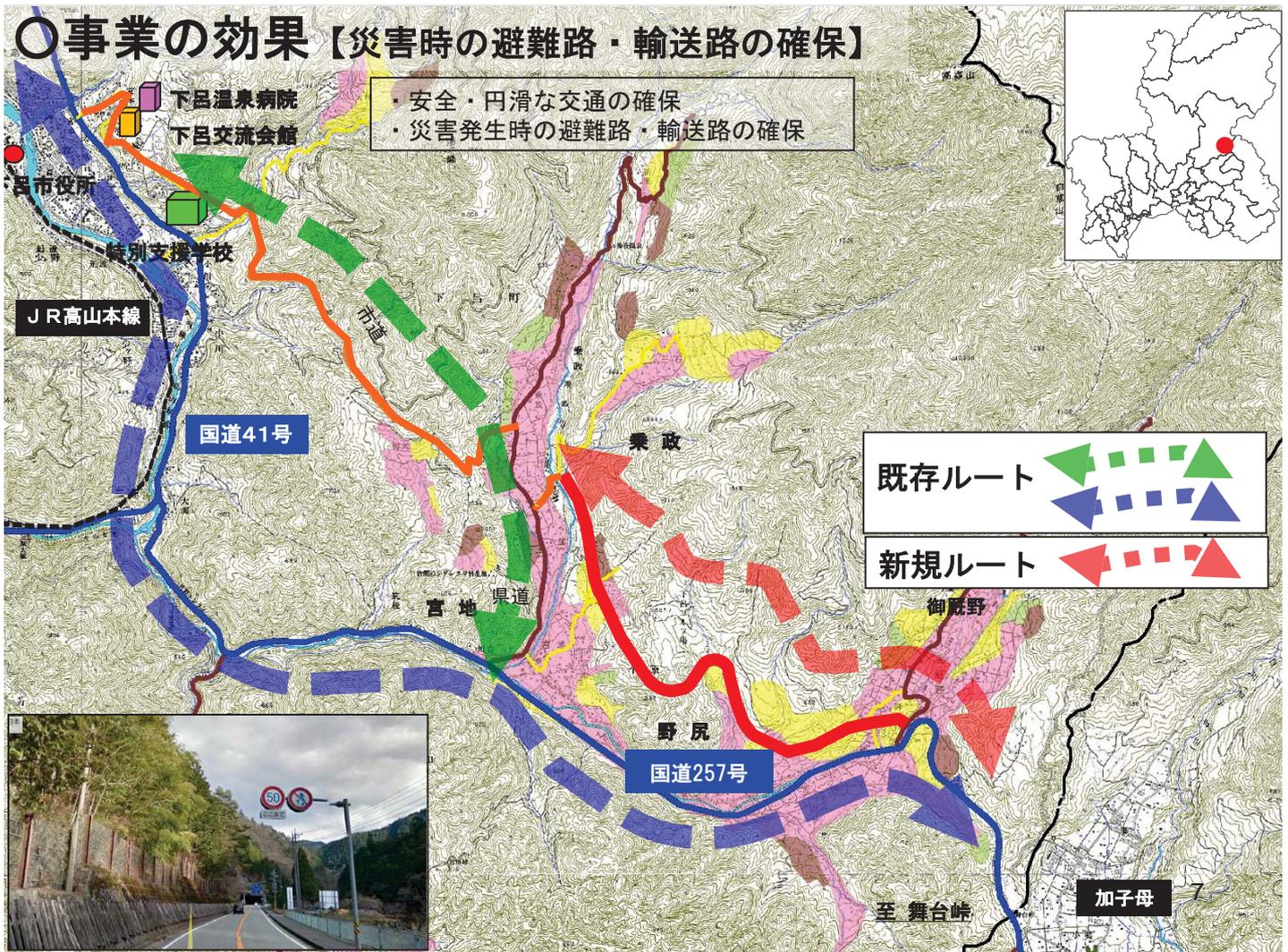
	下呂中央	下呂中央2期	下呂中央3期	全 体
延 長	1,518m	1,337m	1,882m	4,737m
総事業費	1,650百万円	628百万円	1,867百万円	4,145百万円
H30迄進捗	100%	100%	11.2%	60.0%



○事業の効果【堆肥の活用】

- ・ 輸送距離の短縮による走行経費の節減
- ・ アクセス改善による農産物物流の合理化





○費用対効果の分析

■事業の効果

★食の安定供給の確保に関する効果

- ・ 営農に係る走行経費節減効果等 効果全体の68%

★農村の振興に関する効果

- ・ 一般交通等経費節減効果 効果全体の32%

■投資的效果率

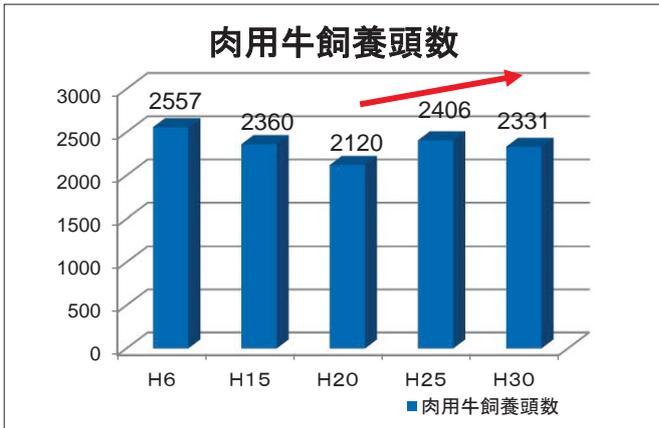
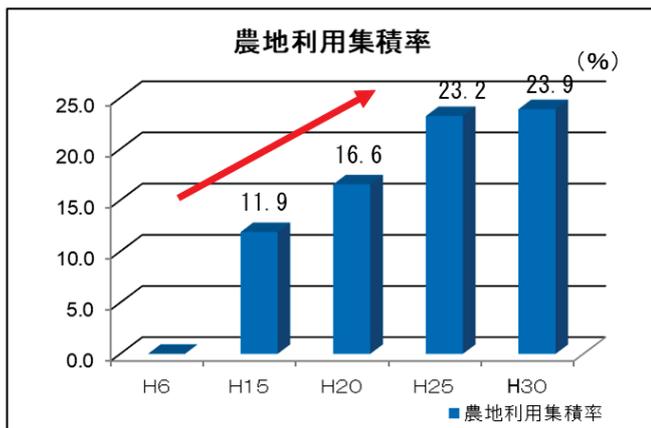
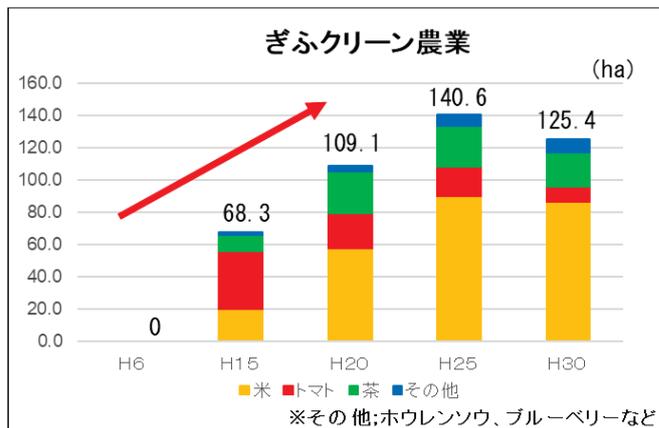
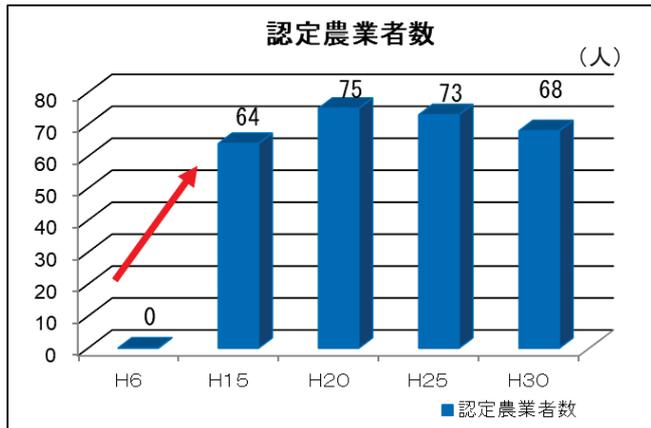
$$\frac{\text{効果額}}{\text{事業費}} = 1.1$$

前回再評価時のB/C

1.2

○事業を巡る社会経済情勢等の変化（1）

＜下呂市全体＞



9

○事業を巡る社会経済情勢等の変化（2）

観光農園入場者数 (人)

年度	田上農園 (ブルーベリー狩り)	栃本農園 (フルーツマト狩り)	合計
H21	2000	2000	4000
H22	2000	2000	4000
H23	2000	2000	4000
H24	2000	2000	4000
H25	2000	2000	4000
H26	2000	2000	4000
H27	2000	2000	4000
H28	2000	2000	4000
H29	2000	2000	4000
H30	2000	2000	4000

下呂温泉宿泊者数 (千人)

年度	下呂温泉宿泊者数
H21	1000
H22	950
H23	1000
H24	1000
H25	1000
H26	950
H27	1000
H28	1000
H29	1050
H30	1100

施設紹介:
 下呂温泉病院(H26~)
 下呂交流会館(H21~)
 いでゆ朝市H12~
 観光農園(ブルーベリー狩り)H19~
 観光農園(フルーツマト)H13~

○コスト縮減・環境への配慮



・一部区間で1.5車線化の採用



・現場発生木材を利用した法面保護工



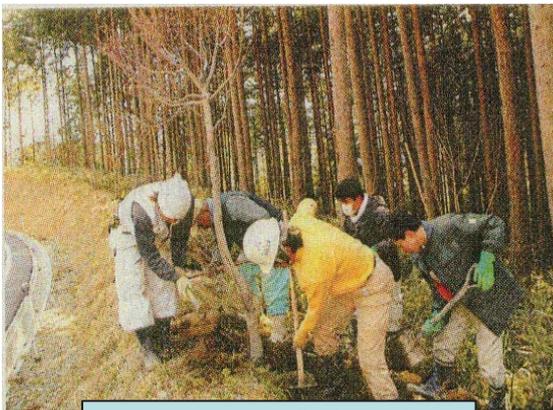
・補強土壁(大型化)採用

・その他
残土処分地の確保等に伴うコスト削減

縮減額 約642百万円

11

○住民協働の取り組み



地元有志による農道法面植栽



御厩野地域のシバザクラ



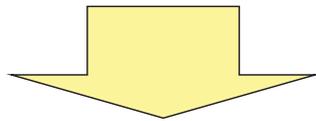
沿線住民による下草刈 (1期・2期供用区間)



12

対応方針（案）

- ・ 受益農家を含む地域住民や下呂市からの本農道に寄せる熱意は高い。
- ・ 農産物輸送の効率化が図られるとともに、観光産業を含めた地域振興、災害時の避難路・輸送路としての利用も見込まれ、重要な路線であり、大きな効果が期待できる。



継続して事業を実施する。

**岐阜県事業評価監視委員会
費用対効果分析資料**

■事業名

県営基幹農道整備事業 下呂中央地区

■事業内容

基幹農道整備 延長L=4,737m、幅員W=7.0m(5.5)

■費用対効果分析結果

区分		前回	今回	備考
		(基準年：H26)	(基準年：H31)	
事業期間		H6～R2	H6～R7	
費用 (億円)	当該事業費	48.7	62.1	
	関連事業費	7.7	10.5	
	合計 (C)	56.4	72.6	
効果 (億円)	営農走行経費節減効果	52.2	52.5	
	維持管理費節減効果	△ 0.2	△ 0.4	
	一般走行経費節減効果	13.9	24.3	
	合計 (B)	65.9	76.4	
費用対効果分析結果 (B/C)		1.2	1.1	

※金額は、社会的割引率（4%）を用いて現在の価値に換算したものの。

■費用対効果分析の分析方法

・土地改良事業の費用便益分析マニュアル／農水省農村振興局/H19.3

■費用対効果分析結果の要因変化

・完成年度がH32→H37(R7)に延びた。
 ・事業年数経過に伴う過年度事業費及び便益費の割増により、事業費及び便益費が増加した。
 ・事業費及び便益費が増加したが、事業費の増加率が高かったため、費用便益比(B/C)は前回の1.2から1.1に減少した。しかし、費用便益比は1.0を上回っており、十分な事業効果が確保される見通しである。